

経営比較分析表（令和4年度決算）

福島県 西郷村

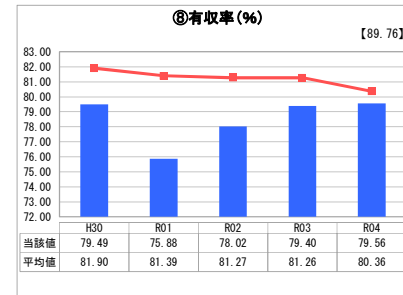
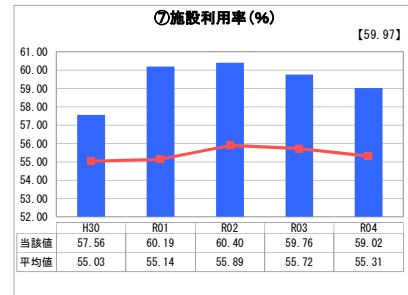
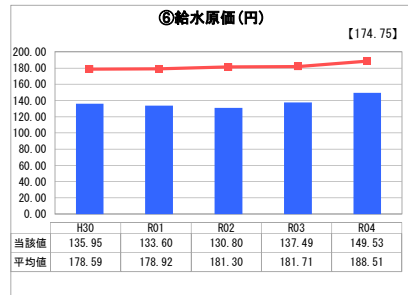
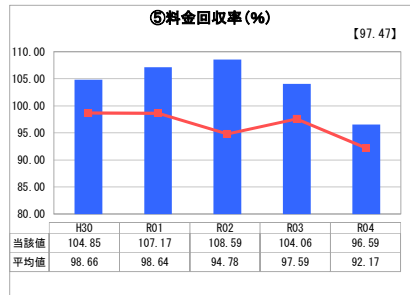
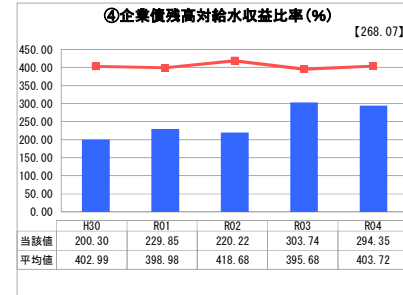
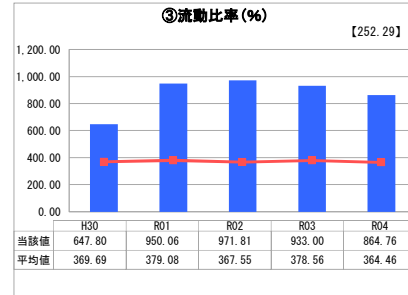
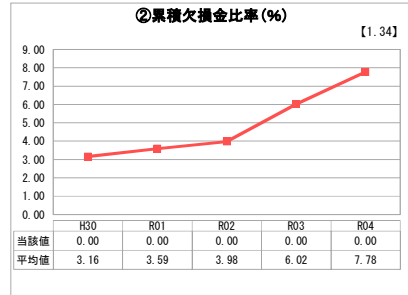
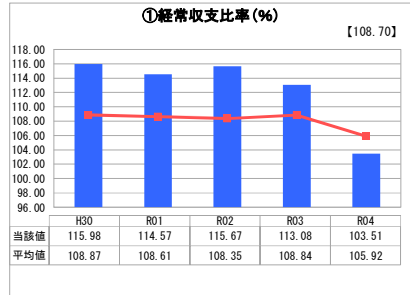
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家産料金(円)	
-	77.19	96.74	2,640	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
20,317	192.06	105.78
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
19,611	66.20	296.24

グラフ凡例

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



分析欄

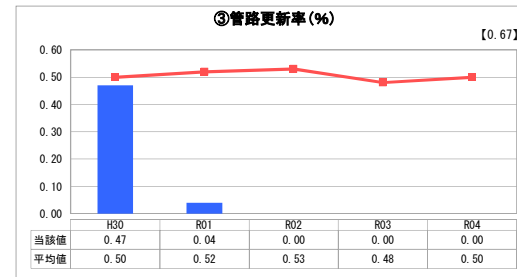
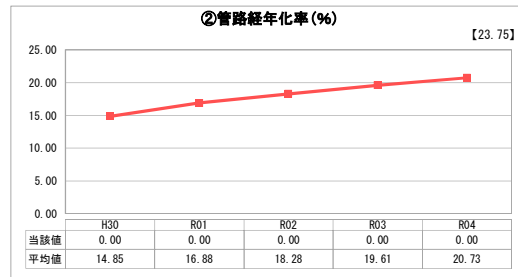
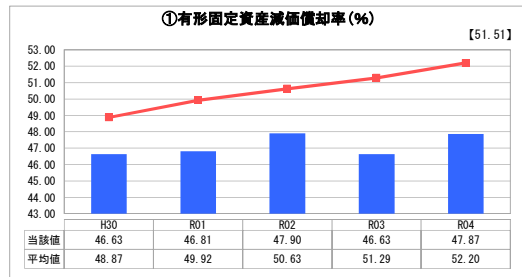
1. 経営の健全性・効率性について

- ①経常収支比率：現在に至るまで100%を超えており黒字経営であるが、令和4年度は昨年度と比較し急激に数値が下降しており、費用削減等の見直しを行う必要がある。
- ②累積欠損金比率：0%のため、今後も引き続き健全経営に努める。
- ③流動比率：短期債務に対して十分な支払能力を有しているとされる概ね200%の水準を大幅に超えて確保しており、短期債務に対する支払能力は良好であるといえる。
- ④企業債残高対給水収益比率：類似団体と比べて低いが、比率は増加傾向にある。今後も適正な借入に努めていく。
- ⑤料金回収率：昨年度までは100%を超えており類似団体も上回っていたが、令和4年度においては100%を下回っており、料金水準を適正化する必要がある。
- ⑥給水原価：類似団体と比べて低いが、近年上昇傾向にあり、収入の確保や費用抑制のための見直しを行う必要がある。
- ⑦施設利用率：ここ数年は下降傾向にあるが、類似団体よりも効率的な利用となっている。
- ⑧有収率：類似団体と比べて低いが、近年上昇傾向にあり、今後も引き続き漏水の早期発見、修繕などの対策に取り組み有収率向上に努める。

2. 老朽化の状況について

- ①有形固定資産減価償却率：増加傾向にあるものの、類似団体や全国平均よりは低いため、他の団体に比べて施設全体の経年化の進みは遅い状況にある。
- ②管路経年化率・③管路更新率：経年管は残存していない状況にあり、今後はアセットマネジメントの結果を基にした計画的な改良、更新を図っていく必要がある。

2. 老朽化の状況



全体総括

現在の経営状況については、概ね健全な状況とあると考えられる。ただし、近年の状況からみると給水原価の上昇に伴って料金回収率や経常収支比率が徐々に低下しており、経営状況が悪化しつつある状況にあるといえる。

施設の老朽化等に関しては、悪化している傾向は見られないが、人口減少や水需要の減少、今後到来する更新期に備え効果的で効率的な更新を行うなど、将来にわたり持続可能な水道事業の運営の在り方について検討していく必要があると考える。